



前へ、前へ

稲元純平さん（13歳・持田）

今月は、9月2日に後楽園ホールで開催された、第5回U-15ボクシング全国大会（以下全国大会）の52・5kg以下の階級で、チャンピオンに輝いた稲元純平さんを紹介します。「ボクシングを始める前の自分は、暴れん坊という言葉がピッタリでした」と苦笑いする稲元さん。生活態度を改めてほしいと願う母・真理さんから「一緒にボクシングをやってみない」と勧められ、小学2年生のときに母と共にボクシングを始めました。稲元さんは自分の闘争心をかき立てるボクシングに、すぐに夢中になってしまったそうです。

自分が躍動できる場所を見つけることができた稲元さんは、すぐに才能を開花。競技を始めてからわずか2年後には、全国大会で初優勝を果たし、レベルアップしていきましました。しかし、小学1年生から続けてきたサッカーと、厳しさを増していくボクシングとの両立が困難になり、小学5年生のときにボクシングから離れ、サッカーに専念することにしました。



ボクシングに未練を残していた稲元さんは、サッカー少年団を卒団間近の秋、すでにプロとして活躍していた母の勧めもあって、ボクシングに復帰。2年間のブランクをものともせず、すぐに感覚をつかむことができたそうです。しかし、実戦となると話は別。復帰後初めて挑んだ大会で敗退し、全国大会へ出場することができませんでした。「この借りは、必ず返す」リベンジに燃える稲元さんは、前へ攻めていく本来のファイトスタイルに磨きを掛けるため、練習前に必ず荒川の土手を走り込むなど、これまで以上にハードなトレーニングを開始。底知れぬスタミナと切れ味抜群のパンチを手に入れた稲元さんは、予選を1ラウンドKOで突破し、全国大会へと駒を進めていきました。

全国大会の舞台はボクシングの聖地「後楽園ホール」。試合開始のゴングが鳴ると、壮絶な打ち合いに。第2ラウンドでダウンを奪われてしまった稲元さんでしたが、落ち着け、気にするな」と自分に言い聞かせ、前に攻めていく攻撃スタイルを貫きました。結果は判定へ。「負けたかな」と思ったそうですが、3-0で勝利し、チャンピオンに輝いたのです。「あのときは、うれしさよりも、安心した気持ちの方が強かったです」と語ります。

将来の目標を尋ねると、にっこりと笑みを浮かべながら「世界チャンピオンです」と即答する稲元さん。自らの拳で世界の頂点をつかみ取る日まで、稲元さんはこれからも進化し続けます。

私の作品

俳句

忍 岡田 修

稲刈りて古墳の高き目の当り

長野 内山 計江

秋遍路杖の先まで無心なり

谷郷 高橋 保子

台風の過ぎ去り風の置き土産

壱里山町 齊藤 閑風

気位も生きる糧なり秋あかね

城南 橋本千枝子

生きかたを少しゆるめて秋扇

持田 伊藤 洋子

地面焼けいても季節を告ぐちちろ

城西 山下 利江

暑さ耐え頭べを下げる稲穂かな

南河原 今村 文女

虫集く灯を消してより尚更に

谷郷 富山 由喜

さりげなき友との別れ今朝の秋

城南 飯野 里子

足萎えて部屋より眺むる彼岸花

渡柳 長森 イセ

恵み雨黄金色した稲穂かな

荒木 蛭間しげ子

一人昼バスタランチに秋の茄子

向町 茂木 咲子

名月に父母の面影高き雲

城南 町田ツギ子

木犀の香りただよう散歩道

持田 田尻 幸代

彼岸花木漏れ日受けてまぶしそう

(木島 斗川 監修)

「ティッシュボックス」

(トールペイント)

代田 喜久枝(矢場)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書
で広報広聴課へご応募ください。



平成23年
11月生まれの
おともだち

新井 香凛ちゃん・鞠伽ちゃん(前谷)
父・康祐さん 母・富美子さん
平成23年11月28日生まれ
「グーンと伸びて健やかに♪」



高橋 里奈ちゃん(押上町)
父・重光さん 母・由紀子さん
平成23年11月6日生まれ
「皆に愛される優しい子に。」



新 花楓ちゃん(栄町)
父・賢一さん 母・千鶴さん
平成23年11月11日生まれ
「いつも笑顔で元気な子に☆」



平野 香凛ちゃん(長野)
父・哲也さん 母・由香さん
平成23年11月2日生まれ



「我が家の華♡明るく元気に」

小野田 レイラちゃん(持田)
父・洋介さん 母・亨子さん
平成23年11月30日生まれ



「心身共に健康で無事に大きくなってね♡」

平成24年1月生まれの
お子さんを募集します

○11月1日(木)～30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、12月4日(火)午後1時30分から市役所203会議室で公開抽選を行います。



さわやか サークル

こと 箏愛好会なごみ ～和の音を響かせて～



奈良時代に中国から伝わり、今では日本の伝統楽器となっている箏。深みのある音色が魅力的とあって、多くの愛好家を生み出してきました。ここ、行田でも、

箏をこよなく愛するサークルがあります。それが、今月紹介する「箏愛好会なごみ」の皆さんです。

箏を通じて知り合った8人のメンバーは、幅広い年代で箏を楽しみ、日本の伝統文化である箏を少しでも広めて継承することを目的に、平成23年1月に同会を結成しました。現在、毎週金曜日にコミュニティセンターみずしるで、2時間程度練習に励んでいます。

「結成当時は、メンバーそれぞれの弾き方に癖があったため、自分たちが理想とする音色を奏でることができませんでした」と語るメンバーの皆さん。そこで、生田流箏曲宮城会大師範の小野節子さんによる熱心な指導を受け、演奏時の姿勢や演奏方法など、基本的な動作や技術を改めて身に付けました。皆さんは、「一人ひとりが奏でる美しい音を重ね合わせ、迫力のある合奏ができるようになることが目標です」と語ります。現在は、11月



に星河公民館で開催される文化祭での発表に向けて、メンバー一丸となって練習に励んでいるそうです。
また、春には市内の小学校を訪問し、子供たちに箏を教えたり、夏休みには公民館で少年少女体験教室を開催したりしました。普段なじみのない楽器に、子供たちは興味津々な様子だったそうです。
結成当初の皆さんの願いは、着実に子供たちに伝わっているのではないのでしょうか。
「聴く人に感動を与えるような音色を追求し、もっと多くの人に箏を好きになつてもらいたい」とこれからの意気込みを語る同会の皆さん。箏に対する愛情を持ち、日々の練習を積み重ねてきた皆さんが奏でる音色は、聴く人の心を和ませてくれることでしょう。

▼問い合わせ 広世 ☎554-5843